

不妊治療専門施設が担うプレコンセプションケアの重要性に関する検討

松岡麻理¹⁾ 重田護¹⁾ 北山利江¹⁾ 太田志代¹⁾ 勝加奈子¹⁾ 門上大祐¹⁾
中岡義晴¹⁾ 森本義晴²⁾

¹⁾医療法人三慧会 IVF なんばクリニック ²⁾HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

近年、プレコンセプションケアの重要性に注目が集まっている。プレコンセプションケア (preconception care: PCC) とは、妊娠に向けて適切な情報を女性やカップルへ提供し、将来の妊娠のためのヘルスケアを行うことである。不妊治療施設を来院する女性が健康な状態で妊娠出産を向かえられるために PCC を行うことも不妊治療施設の役目の一つと考えられ、その重要性について検討した。

【方法】

2018 年 1 月から 12 月に当院で初診時スクリーニング検査を施行した女性患者 1220 例を対象とした。年齢、血圧、BMI、感染症検査、風疹 HI、子宮頸部細胞診、喫煙歴 (パートナー含む) について診療録より情報を収集し検討した。

【結果】

初診時平均年齢は 35.0 ± 4.9 歳であった。血圧、BMI は $110.0 \pm 33.9/64.5 \pm 11.3$ mmHg、 20.8 ± 3.3 であり、高血圧域が 2.1%、BMI25 以上が 8.2%を占めており内科で高血圧や糖尿病治療を要した症例を認めた。

クラミジア PCR、HBs 抗原、HCV 抗体、RPR 抗体、TPHA 抗体、HIV 抗体陽性者は 0.5、0.08、0.4、0.08、0.16、0%であった。風疹 HI が 16 倍以下は 31%であり希望者には MR ワクチンを投与した。子宮頸部細胞診異常は 3.0%であり、子宮頸部軽度異形成以上の診断に至った症例は 12 例認めた。また、カップルのうち少なくともどちらかが喫煙歴を認めた症例は 6.5%であった。

【結論】

初診時スクリーニング検査結果より、不妊治療開始前に専門科と連携を要する症例や生活習慣を改善すべき症例が含まれることが明らかになった。当院初診時患者の約半数が 35 歳以上であり高齢妊娠による周産期リスクの上昇が懸念される。安全な妊娠出産のために、生殖医療従事者が積極的な PCC サポートを行うことが重要と考えられた。